



設楽ダムの建設中止を求める会

会報第24号
2011年10月

<http://no-dam.net/index.html>

控訴審第4回口頭弁論が 9月16日開かれました。

今回の口頭弁論では、控訴人側が6月に出した第4準備書面（控訴理由書（第1準備書）に対する愛知県側の反論に対する反論）に対して愛知県側の反論が予定期日までに出来ませんでした。控訴人の鈴木みさ子さんが、設楽ダム建設予定地の視察を裁判長に求める意見陳述を行いました。（2Pに掲載）。

国土問題研究会調査結果報告会 を開催します

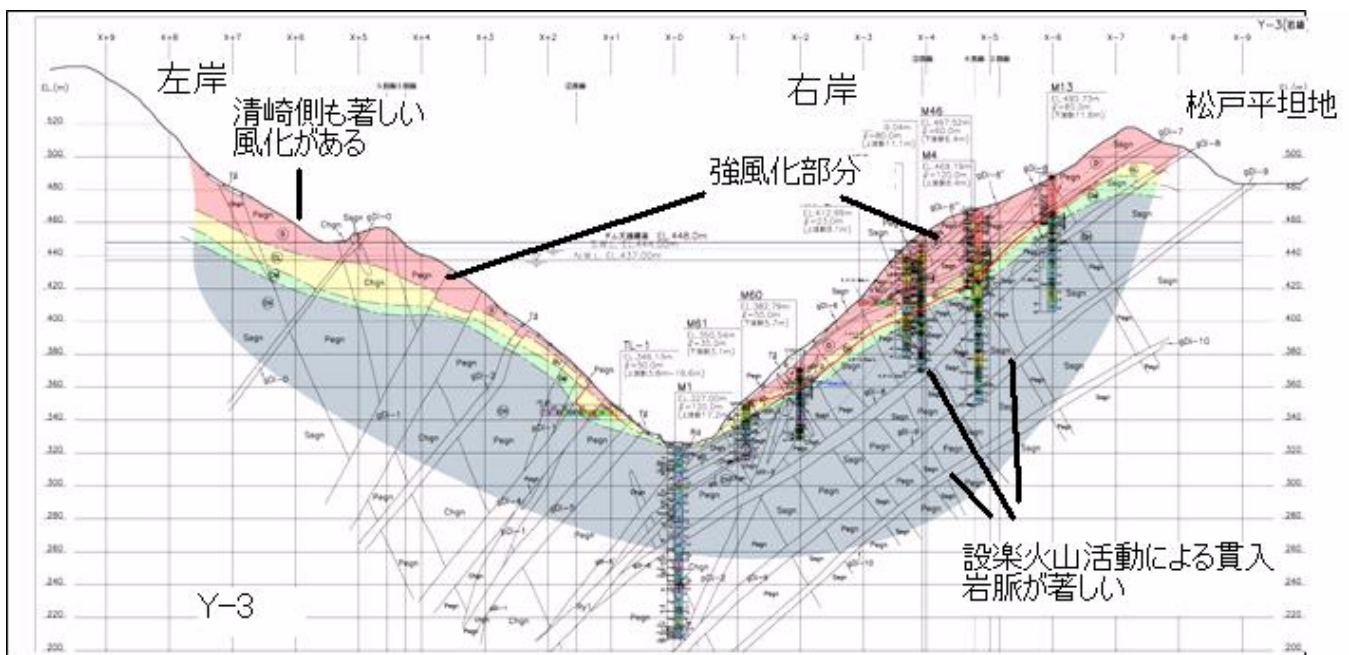
前号でお知らせしましたように、国土問題研究会の地質・土木の専門家に協力をいただいて、さる7月2～3日にダム建設予定地（横坑を含む）および周辺の水没地区の視察が行なわれました。その調査結果報告会を、実際に調査を行なった国土問題研究会会員の紺谷先生を招いて以下の日程で行ないます。

開催日： 第1回	11月19日（土）	午後2:00～4:00	豊橋市民文化会館 第4会議室
第2回	11月20日（日）	午後1:00～3:00	田口特産物振興センター 多目的ホール
第3回	12月13日（水）	午後6時～	名古屋地区で開催予定（会場は未定）

報告者： 紺谷吉弘 国土問題研究会会員
市野和夫 設楽ダムの建設中止を求める会代表
伊奈 紘 " 副代表

設楽ダムが計画されている場所の地質・地盤は以前から悪いといわれていました。その具体的な内容が明らかにされます。岩盤ごと崩れる深層崩壊の恐れ？田口の地下水は？松戸地区は大丈夫か？断層は？

※詳しくは別紙案内を参照してください。



ダム予定地付近断面図

控 訴 人 意 見 陳 述 書

2011年9月16日

控訴人 鈴木みさ子

私は豊橋市神野新田町に住んでいます。

私が神野新田で生活するようになった20数年前、三河湾はアサリの宝庫で、六条潟は活気にあふれていました。春から夏にかけ、毎日海に入り、胸まで海水に浸かってアサリを獲る生活をしていました。

しかし、1980年代の後半を境としてまったくアサリが獲れなくなりました。そして、年月を経て、今は、稚貝が湧き出てくる奇跡の干潟として愛知県のアサリ生産高日本一を支えているのがこの三河湾、六条潟です。

瀕死の危機にありながら、奇跡的な回復をとげつつある三河湾の環境をこれ以上痛めつけてはならないというのは、この海で生業を営んできた者の共通の思いではないでしょうか。

三河湾の環境を悪化させないために、上流にダムを造ることはやめてほしい、このことをまず最初にお願いをいたします。

さて、今般、控訴人側が設楽ダム建設予定地付近の岩盤の調査を行なった結果、無数の断層が走っていることがわかり、ダムを建設するのに不相当ではないかという疑問が出ています。

このような地盤にダムを造り、貯水すれば岩盤ごと地すべりが起きる恐れがあるとのこと。もしも、ダムが完成し、満水状態で、田口や松戸地区が大規模な地滑りを起こせば、人命や財産に取り返しのつかない被害を及ぼすとともに、ダム湖に生じた津波が堰堤を乗り越え、濁流が下流を襲う可能性もあり、なんとしても防がなければなりません。

現在係争中の長野県の県営浅川ダム訴訟について、長野地方裁判所は9月8日に、裁判官、原告・弁護団や、専門家、県職員など約20人で断層の形状などの現地調査を行ない、写真撮影などで証拠保全を行なっているとの報道がありました。

名古屋高等裁判所におかれましても、ぜひ科学的な事実に基づき、愛知県が公金支出をする事業として妥当であるか否かのご判断をいただきたく現地調査をお願いいたします。

台風12号による記録的な豪雨は、紀伊半島を中心に各地で甚大な被害をもたらしました。土砂ダム決壊の危険性も今なお予断を許さない状況にあります。大滝ダムのある奈良県川上村で大規模な土砂崩れが起きた問題について、ダム建設と土砂崩れの因果関係が、今国会の災害対策特別委員会で言及されています。国土交通省河川局などによると、土石流や崩壊の危険がある土砂災害危険箇所が全国で約51万箇所もあるといいます。整備が進まないのは災害予防の予算が少ないためだそうです。2001年度には約2兆2000億円だった国土保全予算は今年度6748億円へと約3分の1に、約1兆円あった災害予防予算は、今年度約2000億円へと5分の1に落ち込んでいます。災害による被害の軽減のためには、事前の投資が必要です。いまダム建設に3000億円もの巨額の税金を使うよりも、直ちに対策を必要とする防災予算に回し、災害への備えを強化することが、住民の命や財産を守るために緊急を要するのではと思います。

東日本大震災から半年がたちます。復興をすすめるためには、いま計画されている不要不急の公共事業の見直しが求められています。

同時に今までの開発優先の国や地方自治体のあり方を問い直し、私たちも生活のあり方を見直すこと、自然との共生や、持続可能な地域社会へと発展させることが問われています。

裁判所におかれましては、ぜひ、住民の安全最優先の観点から、建設予定地および周辺の調査を踏まえたうえで、本事業と本事業への公金支出の妥当性をご判断いただきたく重ねてお願いをいたしまして陳述といたします。



設楽ダム訴訟控訴審、次回は12月13日（火）13：30～に開かれます。

今年6月、私たちの会では、国土交通大臣と愛知県知事に対して要請書「2011年度設楽ダム関係予算を震災復興に」を提出しました。

この要請書について、設楽ダム事業に関わる費用は一体どうなっているのか、という質問が届けられています。そこで当会会員の本村伸子さんが、設楽ダム事業費について詳しく調査されましたので、その調査報告を以下に掲載いたします。参考にしてください。設楽ダム費の実態が詳しく調査されています。

設楽ダムは「検証中」にもかかわらず 予算をどんどん使うのはおかしい！

—復興・救援、防災対策、社会保障に予算をまわして— 本村 伸子(当会会員)

国も愛知県も設楽ダムは「検証中」にもかかわらず、予算をどんどん使っています。もちろん、私たちの運動がなければ、その額はもっと多くなり、もっとやりたい放題になっていたと思います。

今、東日本大震災、福島第一原発の事故で被災された皆さんは、生活再建もままならない状況です。この地域も東海・東南海・南海三連動の大地震がいつおきてもおかしくないと言われています。

「社会保障・税一体改革成案」が決定され、消費税増税、年金、医療など社会保障改悪が行われようとしています。「復興増税」で庶民に所得税、住民税などの増税(大企業は実質減税ですが…)が行われようとしています。

そんなときにムダで環境破壊、災害を誘発する設楽ダムをつくることは、許しがたい犯罪的な行為です。

みんなの力でムダづかいをやめさせ、本当に必要なところに予算を使わせましょう！

○設楽ダム関連事業費3000億円のなかみ

事業内容	事業費	県負担額
ダム本体	2070億円	720億8600万円
水源地域対策事業	903億3900万円	668億600万円
(内訳)①水源地域の振興対策	831億9300万円	606億円4500万円
(内訳)②水没者等の生活再建対策	26億1300万円	22億5300万円
(内訳)③設楽ダム対策基金(積立金)	45億3300万円	39億800万円
合計	2973億3900万円	1388億9200万円

● 設楽ダム事業は、ダム本体+水源地域対策事業=約3000億円の事業とされています。

● この3000億円は、あくまで計画です。国の「再検証」の会議でさえ、ダム本体の事業費が、2070億円以上になると認めています。

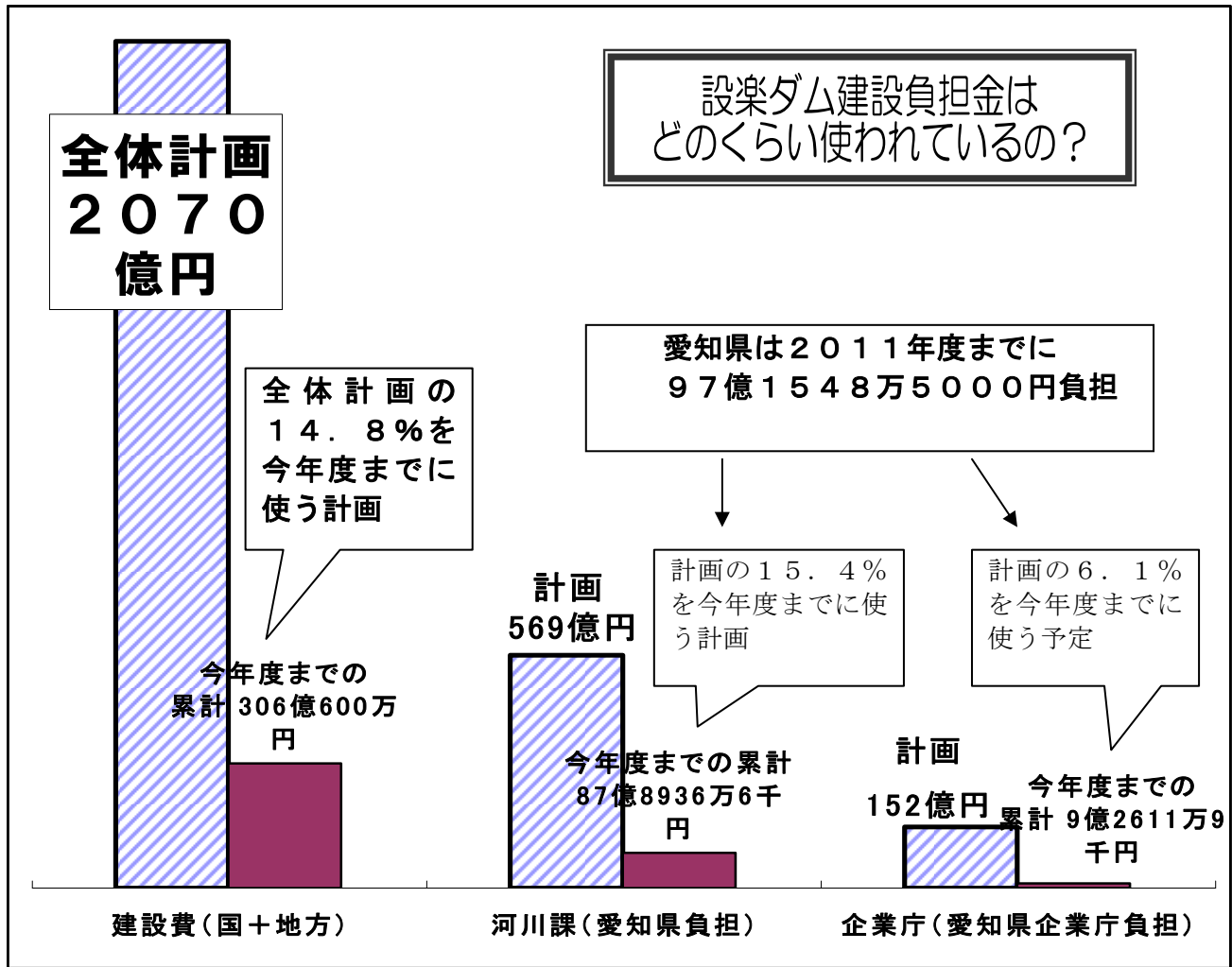
【愛知県からの聞き取り】 2011.09.09

設楽ダム建設予定地から離れている場所ですが、設楽町内で国道420号の改良工事(交付金)、国道257号線の道路改良工事(D6)【歩道整備】が行われました。2つの事業の看板には、愛知県新城設楽建設事務所設楽ダム関連工事出張所事業課が発注したと書いてあります。

設楽町から足助病院に通うのに一番近い生活道路である国道420号の拡張などは、設楽ダムと関係なく一般行政でやるべきものです。それを、設楽ダムを受け入れたら拡張すると設楽町の皆さんを誘導したのでしょうか？何でも設楽ダム関連させて、ダムと引きかえというのは本当におかしいです。上記2本の道路整備については、水源地域対策事業の903億円のなかに入っている事業で3000億円の枠内の事業だと愛知県から説明がありました。また愛知県から、現在、水没予定の皆さんの集団移転地として新城市の杉山をあっせん中で、水没予定の124世帯の方のうち、すでに移転しているのは、27~28世帯と説明がありました。

補償金については、水没予定者の124世帯の皆さんと水没する土地の地権者800人で、全体で400億円と言われていること、3月31日までに契約済みが40億円で、230軒の地権者に補償金がわたっていることなど説明がありました。

さらに2009年度の国の予算は、19億9000万円だが、2009年度は、国の債務負担行為で別枠に30億円がつき、そのお金で土地開発公社が土地を先行取得していたこと、2010年度から2013年度で返済する予定であることなど説明がありました。



今年度

	計画	～2008年度 (決算)	2009年度 (決算)	2010年度 (決算)	2011年度 (当初+補正)	累計	進捗率
建設費 (国+地方)	2070 億円	224 億円	19 億 9000 万円	27 億 6600 万円	34 億 5000 万円	306 億 600 万円	14.8%
河川課 (愛知県負担)	569 億円	68 億 2754 万 2000 円	5 億 6394 万 6000 円	5 億 6779 万 9000 円	8 億 3007 万 9000 円	87 億 8936 万 6000 円	15.4%
企業庁 (愛知県企業庁負担)	152 億円	0 円	2 億 2509 万 2000 円	3 億 255 万 2000 円	3 億 9847 万 5000 円	9 億 2611 万 9000 円	6.1%

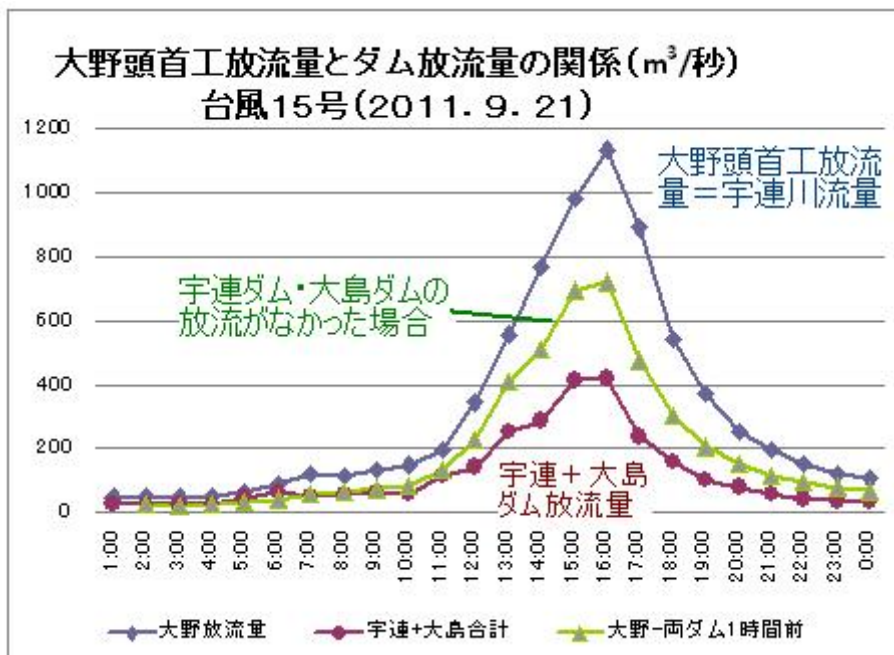
以上

台風15号による豊川洪水について

去る9月21日に浜松付近に上陸して東進した台風15号で、豊川に大きな出水がありました。豊川の下流域の一部には避難指示が出され、数戸の床上浸水と20戸余りの床下浸水がありました。破堤はなく、実りを迎えていた水稲にも浸水による被害はほとんどありませんでした。農家はハウス作物などの手入れで大変でしたが、人命に関わるような被害が出ない豊川の伝統的な治水のしくみは大切な郷土の土木遺産だと思います。

今回の洪水の特徴は、寒狭川の上

流域にはそれほど強い雨は降らなかったこと、宇連川流域、とりわけ静岡県境に接している大島ダムの周辺に豪雨が降ったことでした。浸水や出水の調査を24日に7名の参加で実施しました。



2011.9.21 豊川洪水調査報告

○豊川上流域の降水量

今回の洪水に直接関わる台風15号本体の雲に伴う強雨(9月21日10:00~16:00の6時間合計雨量)は、寒狭川流域が133mm~181mmでした。いっぽう、豊川用水の水源、宇連ダム、大島ダム、大野ダムが設けられている宇連川流域では165mm~236mmで、寒狭川流域より多く降りました。しかも13:00~16:00の3時間でみると、寒狭川上流域では70mm程度でしたが、宇連川の大島ダム周辺では川合116mm、山吉田125mm、巢山134mmと非常に強い雨が降りました。台風が浜松付近に上陸して東進したことから、台風に近い静岡県境付近の山地に発達した積乱雲がかかったと考えられます。

寒狭川流域 田口 74/141mm、豊邦 69/155mm、田峯 69/133mm、高松 95/181mm、高里 94/179mm、海老 96/174mm、布里 86/168mm

宇連川流域 岩井沢(水) 91/165mm、川合 116/194mm、大島ダム(水) 100/174mm、巢山(水) 134/236mm、山吉田 125/219mm、槇原(水) 94/184mm、大野(水) 116/203mm、

数値は3時間雨量/6時間雨量を示す。また(気)、(水)は、気象庁、水機構で、残りは国土交通省の観測点です。

○豊川下流地点の最高水位と時刻

石田	7.61m	(標高約26.5m/天端26.6)	16:00
向川原(賀茂)	8.75	(標高約15.5/天端16.9)	17:00
当古(下条)	6.52	(標高約8.5/天端12.5)	18:00

○豊川の流量(石田地点)

今回の15号台風に伴う豊川の石田地点のピーク水位は16時の7.61m、流量は約4200m³/秒で、瞬間最大流量はこれを上回ったものと考えられます。

○既設ダムの放流ピーク流量と時刻

宇連ダム 250m³/秒 15:00、大島ダム 200 m³/秒 16:00
大野ダム(頭首工) 1138 m³/秒 16:00(瞬間最大1168m³/秒 15:06)
なお、宇連ダム、大島ダムともに、21日午前〇時の時点で、満水状態でした。

○不連続堤(鎧堤)遊水地の浸水状況(現地調査、標高で示す…誤差0.1m程度)

金沢 14.0m 賀茂(三上) 11.0m 下条(牛川町暮川) 5.6m 牛川(沖野) 3.6m

○ まとめ

豊川用水の水源ダム付近では、台風本体に伴った強雨が9月21日の10時から16時ころまでの6時間ほど降りました。満水状態にあった宇連・大島・大野の既設ダム群は、利水目的のダムであるため、事前放流などの洪水調節措置を全くとりませんでした。このため、両ダムから合計およそ400m³/秒の放流があり、それを受けて大野頭首工地点では、宇連川下流への放流量が最大で1170m³/秒に達しました。下流の鰐堤(霞)地区における浸水の他に、宇連川流域の湯谷温泉、赤引温泉、および豊川流域の桜淵など、川沿いのホテル・旅館などの施設や一部の住宅に被害が出ました。

宇連ダムと大島ダムの9月21日24時間の放流量はおよそ1000万 m³ に達しました。宇連川の出水が大きかったことについて、もしもダム放流がなかったとしたら、宇連川の洪水ピークは、1100m³/秒からおよそ700m³/秒に減り、豊川(新城市石田)の4000m³/秒を越えるピーク流量から、400m³/秒程度カットできたはずですが、今回は、豊川用水の水需要の過半を占める水田灌漑用水は必要のない時期で、かつ両ダムとも満水、調整池もほぼ満水に近い状態でしたから、数百万 m³ のダム貯水を事前に放流して、洪水を小さくする準備をしておくことが可能でした。台風や雨量の予測の技術はよく発達していますから、豪雨が予測される場合には、たとえ、利水ダムであっても、事前放流によって備えるようにすれば、流域住民の幸福につながります。(市野)

★立木トラスト運動参加者3,000人を超える！



東日本震災や統一地方選挙などで2800人から足踏み状態でした、立木トラスト参加者がここに来て増え始めています。10月に入り、参加者は3000人を超えました。

ご協力ありがとうございます。今後とも各地のイベントなどで広報活動を進めていきます。ご一報いただければこちらよりチラシ等送付いたします。

よろしくお祈いします。

(写真は今年7月25日に行なった立木トラスト名札付け参加者一同。背景は10番目のトラスト山とそれを報せる立看板)

カンパをありがとうございました。 おかげさまで目標額を達成しました。



前号でお願いしましたカンパ(目標額50万円)は8月末で達成いたしました。

みなさまのご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

国土問題研究会の専門家による、科学的に調査された地質岩盤調査報告書を作成し、これからのダム中止運動に、裁判に、と活かして参ります。

報告書は次号に同封いたします。また報告会会場で配布いたします。(事務局 奥宮)



設楽ダムの建設中止を求める会: <http://no-dam.net/>

郵便振替の口座番号:00870-1-134146 加入者名:設楽ダムの建設中止を求める会
他銀行からの振込みは、ゆうちょ銀行【店番 089(ゼロハチキュウ店)当座 0134146】

代表 市野和夫 ichinok7@mx3.tees.ne.jp

事務局 奥宮芳子 〒440-0069 豊橋市御園町1-3

Tel & fax 0532-54-7305 okumiya@xj.commufa.jp